

校長室の窓から

「やりたい」を実現することって・・・

先月 mac book を買いました。(買い物自慢かい！)

いえいえ、もう少しお付き合いください。

それで、職員室で、

「『いつかは mac を・・・』と思ってたけど、ついに実現した。」

「もう一つ、『いつかは大型バイク』と思ってたけど、それも実現した。」

「もう、あとは死ぬしかない。」なんて不謹慎なことを言って職員を失笑させてしまいました。もちろん、簡単に「死ぬ」とかいうべきじゃない。でも、これ、半分本当のことでもあったんです。



今から約20年前、40歳の誕生日の1か月前。人間ドックで「がんの疑い」を告げられました。

「すぐに入院です。検査の予約をとります・・・手術は・・・」——『ドックに行ったきり帰ってこない。』なんて、ジョークだと思っていました。

そのあとセカンドオペニオンを受け、入院、手術が決まる。5年間の生存率はわずか40%らしい。

しかし、自分でも意外と冷静で、ショックを受けたのは、告知を受けた時、ほんの数秒だけでした。

さて、入院・闘病生活では、辛い(というか痛い)中にも、実に面白い話がたくさんあるのですが、それはまた今度。今回は、退院してからの心の変化についてお話しします。

退院してすぐ、抜糸も完全に終わらないうちに赴任したのが頓原中学校でした。そして、考えたこと。

『5年しか生きられないんだったら、やり残して後悔していることを全部やり遂げる。』

それが次の三つ。

- ① 英語が話せるようになる。
- ② スキーで1級を取る。
- ③ 大型バイクの免許を取る。

今振り返ると、たいした目標じゃないのかもしれませんが。でも、当時の私にとっては、命のカウントダウンの中で決めた目標であり、「生きる意味」でした。

まずは英語の勉強。とりあえず、息子と一緒にNOVAに入学。これは、息子と一緒にいる時間を増やしたいという意図もありました。そして、人生で一番英語の勉強をして数年で目標達成。

スキーは、義理の父(準指導員)の指導の下、1年で目標達成。

最後の目標「大型バイクの免許取得」は、唯一、5年のタイムリミットに間に合いませんでした。

言い訳をすると、そもそも免許を取るだけで乗り回す時間はないと思っていたので、今一つやる気が出ませんでした。加えて現代医学の成果でしょうか、その

後再発はなく、逆に入院前より元気いっぱい。良くも悪くも、なんとなく、ずっと生きていられるような気になって・・・そのうち、『そもそも、たいした目標じゃない。』と思うようになり、放棄することにしました。

そして、退院から11年目。単身赴任で鹿足郡に勤務したとき、母が急死。悲しみのどん底で、もう一度命と向き合う機会をもらいました。それから、一人で考える時間もたっぷりもらいました。そんな中、放棄していた目標を思い出したのです。

『目標がたいしたことかどうかじゃない。いったん自分で決めたことだから、最後までやり遂げなきゃ。今やめたら後悔する。』そう思って、大型バイクの免許取得に動き出しました。ただ、今回は乗り回す時間もありません。だから、「購入」とセットでやり遂げる。ということは、妻には極秘事項ということ。

秋から冬にかけて益田市の夜間スクールに通い、一か月強で目標を達成しました。

19歳からバイクに乗り始め、今年でちょうど40年。今、自分のバイク人生は豊かだと実感できるのは、あの冬にスクールに通ったからだと思っています。

これで、三つの「やり残し」が完了しました。

つい先月、「不要不急の外出自粛」の中で、派手なバイクで通勤するのはなんだか不謹慎な気がして、妻に、「もうバイク通勤やめるかなあ。遊んでるみたいに見えるから、心が折れた。」と言ったら、

「いったん始めた不良は最後までやり遂げなさい。」と叱咤され。

(いやいや「不良」じゃないし・・・)と思いながらも、妻の肝の座り具合に、とても感銘を受けたので、

「さすが、現役のヤンキー(不良)は言うことが違う。感銘を受けました。」とテーブルに手をつけて頭を下げました。

で、macの話はいつ出てくるのかって？

はい、お待たせしました。それは、入院よりもずっと前。ICTの研究を始めたときからの「夢」。

ということで、その話はまたの機会に・・・。